

04・高級ホテルのビューバスで、全裸で窓に押し付けられて乳首責めセックス

トラック03の数時間後。
とある年の春。

五月十二日。十九時ごろ。

場所は主人公とシーラが本日宿泊する、高級ホテルの浴室。
天気は晴れ。室温は二十四度程度。

主人公とシーラは今、一緒にこのお風呂に入っている。

とても広いお風呂なのにびつたりと密着して、シーラが背後から主人公を抱きしめる形
で、お湯につかっている。

S E 1 沐室の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【トラック終了まで流し続ける】

【0—7秒ほど流してS E 2】

【その後、音量がとても小さくなる】

S E 2 シーラがお風呂で身体を動かす音
【最初から最後まで流す】

舞台はとても広いホテルの浴室。
編集で『お風呂加工』を入れる。

シーラ、背後から頭を出すと、主人公の頭を自分の方へ向けさせる形でキスをする。
主人公はそれに、夢中で応える。

今日もすっかり、シーラとの行為の虜になつていてる。

●正面 0センチ

「※9回※ キスする。

たっぷり、ねつとりとキスをする。

シーラは主人公の背後により、主人公の顔をこちらに向けさせてキスしている
あんむ……んつ……ちゅ
ちゅ……ちゅっ
♥

ちゅふぶつ……ちゅ♥

んんつく……ちゅ♥

【満足げに微笑む。】

トラック03までとは一転して、主人公がとても素直かつ積極的で嬉しいので。

『達された』とは『イッた』という意味】

ふふ。お嬢様ったら。

達された後は、本当に甘えん坊さんなのですから……♥』

△主人公△

「だつてもお四回もしたあ♥

まだ七時とかなのにい♥

シーラもう四回もエロい事したあ……♥

ああんむ……ちゅ♥』

そう。 そうなのだ。

先ほどの主人公が予想した『三度目の絶頂もさほど遠くないだろう』という展開は、その後、半分当たって半分外れた。

つまり主人公は予想を超えてあの後二回。

本日、計四回に渡つてイカされたのだ。

三回目はうたた寝から目を覚ました後、ベッドの中ですぐに。

四回目は脱衣所で。三回目の行為中に全裸にされ、汗まみれでキスマーケだらけになつた身体を、どろどろに欲しがつてゐる膣内を、丹念に犯された。

だが、そこまですれば、一般的にはもう精魂尽き果ててしまつて、もう、その日はセックスする気になどならないよう気がする。

しかし、もう何年も何年もシーラに好きにされ続けている主人公は、すっかり体力がついてしまつてゐるようだ。

こうして、また飽きもせずに……シーラとキスして、触られている。

●正面 0センチ

「【※8回※ キスする。

たっぷり、ねつとりとキスをする。

シーラは主人公の背後におり、主人公の顔をこちらに向けさせてキスしている】

ああんむ……ちゅ 

んんつ……くちゅつ 

ちゅ。ちゅつ 

ちゅるるるつ……ちゅつ♥

【※息づかいのみ※ で表現する。
うつとりとため息をつく】
はあ……♥』

△主人公

「……はあ、はあ、はあつ……♥』

それどころか、主人公はずいぶんと勢いを取り戻しつつある。

このまままたなし崩し的にセックスされそうな雰囲気に対して、また、ささやかな『抵抗ごっこ』をして、シーラを煽る気でいる。

●正面 0センチ

「穩やかに優しくたずねる。

主人公が何か言いたげなので。

『主人公は絶対、まだセックスしたいに決まっている』と、自分の予想に確信がある上で聞いている

あら……？

如何（いかが）なさいましたか？ お嬢様……♥』

『主人公』

「あのねつ……？」

今、またシーラここでやる気になつてゐみたいだけどつ
もうしないつ。もうしないからねつ♥

これからご飯もあるし。

ここに来てからわしたち、エロい事しかしてないじやんつ……
もおつ♥ 絶対しないからねつ♥』

こうは言つても、シーラには主人公の真意などお見通しなのだろう。

シーラはまるで意に介さずに、主人公の右耳元に唇を寄せる。

それから、何食わぬ様子でそつとささやくといふ、余裕のリアクションをしてみせた。

シーラ、主人公の右耳にささやく。

これによつて声の聞こえる方向が『正面』から『右』になる。

★右 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【穏やかに優しくたずねる。】

『主人公は絶対、まだセツクスしたいに決まっている』と、自分の予想に確信がある上で聞いている】

まあ。然様（きょう）でございましたか……♥

てつきりお嬢様は、まだまだされたいのだとばかり思つておりました』※

〈主人公〉

「つ……♥ 違うからあ……♥」

主人公、このホテルに用意されているだろう施設やサービスを挙げて否定しようとする。だが、どれもここでシーラに犯される喜びには勝てない気がして、結局漠然と首を振るのにとどまる。

もちろんこの建物内に存在するものは、どれも魅力的だし素晴らしい。

だが、それを利用するのがセツクス中毒で、すっかりシーラに価値観を狂わせている主人公では、あまりにもホテル側が不利だろう。

主人公はシーラに意地悪されながら、ずるずるとされるがままになる事が、あまりにも好きすぎる。

身体の大きさでも、口の達者度合いでも負けて。

なすすべもなく、いつまでも、いつまでも気持ちよくさせられる事が、好きすぎるのだ。

S E 3 シーラがお風呂で身体を動かす音2

【最初から最後まで流す】

★右 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「穩やかに優しくたずねる。

『主人公は絶対、まだセックスしたいに決まっている』と、自分の予想に確信がある上で聞いている

と言う事は。

今日のお嬢様は、既にご満足されて。

もう、どのような愛撫にも反応されない……という事でよろしいでしょうか』※

△主人公△

「つう……♥」

主人公、またも恥ずかしくなつて口ごもると、ばつが悪そうに顔をそらす。
昼も夕も今も、主人公はいつも似たような反応ばかり。

そうなつてしまふのは、似たような展開を望んでいるからだ。

シーラは一見己の欲望に忠実なようで、実際は主人公の『性癖』に付き合わされている。自分から誘つてきているように見せて、実際は主人公の次の要望を見抜き、あるいは待つ形で、次の行動を選択しているのだ。

シーラ、主人公の右耳に話す。

右 0 センチ

「〔そつと、優しく。

だけど少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで】

残念です……

私（わたくし）はまだまだ、して差し上げたい事が沢山ございますのに……♥

〈主人公〉

「あ……つ

……つ、シーラつてばつ
ほんとエロい……
〔〕

そして、主人公の反応はこれだ。

しかしこの返答では『では、ぜひそれをしてみて下さい』と言っているのと同じだ。シーラはこれを了承とみなすと、さらにぴったりと身を寄せる。

シーラの大きな胸が柔らかく潰れ、背中に張り付く程密着されて、主人公は否応なしに、その感触を強く意識する。

●右 〇センチ

「そっと、優しく。

だけど少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえつちな展開を期待させるような感じで。

自分がいかに主人公を愛しており、心にも体にも魅力を感じている事を述べていく
ええ。そうです。

私（わたくし）の全ては、お嬢様に捧げる為に存在しておりますから。

お嬢様のなさる事は、全て魅力的に思え……お嬢様のお身体は、どこをとつても性的に
感じられて。

身勝手にも欲情してしまうのです」

シーラ、言うと、右耳にささやく。

★右 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【そっと、優しく。

だけど少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで。

……ですから、ここからは、セックスではない事を致しましょうか」

※

△主人公

「あ♥」

するとシーラは、主人公の両胸を優しく持ち上げ、軽く右耳を吹く。

確かに一応セックスではないかもしれないが、限りなくセックスに直結しているとしか思えない行為を、始める。

●右 0センチ

「【※軽く、長めに耳を吹く※

そーっと、優しく吹く感じで一
ふうつ……

【※1回※ 耳にキスする。

耳の入り口に、軽く触れるだけのキス】

ちゅ
♥】

△主人公△

「あ
♥　あ
♥　や
♥」

主人公の反応などまるで気にしていないかのような態度で……主人公の胸を堪能していく。

※ここからシーラはずっと『やや興奮気味』になる。

『これまでと比較して、すべて一段階ほど興奮しているな』という感じになる。

●右 0 センチ

「うつとりと。

主人公の胸の感触が、あまりにも心地いいので。

また、どのように心地いいのかを述べていく】

はあ……柔らかい……
♥】

お嬢様のお胸は。温かくて。

易々（やすやす）と私（わたくし）の手に支えられて。
とても可愛らしい……♥

【※4回※ ゆっくりめに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。

主人公の胸の感触が気持ちいいし、喘ぎ声が可愛らしいので】

はあ……♥ はあ……♥
はあ……♥ はあつ……♥

【うつとりと。

満足げに、少し興奮した様子で】

ああ……お嬢様。お嬢様つ……♥

愛しています。愛していますよ……♥

【※8回※ 耳を舐める。

ペろペろと戯れるような、まだ軽めの耳舐め】
ちゅ。ちゅつ。ぺろつ……れろお……
んつちゅ。んつちゅ。れろおおつ……♥

〈主人公〉

「シーラあ♥ これ♥ これってえつ……♥」

主人公、『どう見てもセックスでしょおつ♥ 何がセックスではない事なおつ♥』と言つて反論しようとするが、まるで言葉にならない。

シーラに触られる事が、あまりにも気持ちよすぎるのだ。

●右 〇センチ

「うつとりと。

満足げに、少し興奮した様子で。

主人公の胸の感触が気持ちいいし、喘ぎ声が可愛らしいので。

また、主人公がどうするべきかを優しく指示する】

はい……♥

私（わたくし）は今。

お嬢様の可愛らしいお乳に、マッサージを施しております……♥

お嬢様は、ただお湯に浸かりながら……：

【※1回※ 耳にキスする。

さつきよりもねつとりしたキス】
ちゅ。

私（わたくし）に身を委ねて下さいませ。

【※2回※ 耳にキスする。

さつきよりもねつとりしたキス】

ちゅ……ちゅ。

【※3回※ 耳を舐める。

さつきよりもねつとりとした耳舐め】

れろおつ……

ちゅるるるつ……れろおつ……

【※6回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。

ますます昂ってきたので】

……はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。

はあつ……



おまけにシーラは、主人公がうまく言えなかつた部分を勝手に解釈し、遠慮なく主人公の胸を、耳をまさぼっていく。

……確かにそれらは、先ほどまでのえつちではあまり意地悪されなかつた部分だ。
だからシーラは『マツサージ』とかなんとか言つて、こんなに触ろうとしてくるのか……

主人公がそう理解した頃には、もうすべての流れは確定している。

主人公はこれから、シーラが満足するまで、延々この二か所をいじめられるのだ。

△主人公△

「あ♥　あ♥　……うあ♥」

●右 0 センチ

「少し不思議そうに。

少しおざとらしく。

『主人公が物足りなくなつてきて、乳首を触つてほしがつていてる』という事を、理解しながら、解つていなふりをしているので。

『先っぽ』とは乳首の事】

うん……？

どうなされたのでしよう。

乳房を揉みしだかれて、苦しくなつてしまわれたのでしょうか。
それとも……先っぽが、切なくなつてしまわれたのですか？」

〈主人公〉

「あ。あ。ああ……つ♥」

まだ何も言つていないので、シーラが前触れもなく乳首をつまんでくる。

何年も毎日、一日も欠かさずそうしているせいで、完全に力加減を把握している指で。
主人公の硬くなつた乳首を、こりこりと、くにくにと愛撫してくる。

主人公の喘ぎ声は途端にわかりやすく低くなつて、深く感じているのがバレバレだ。
シーラの乳首いじめは気持ちよすぎる。

ずっとされたすぎて身もだえする主人公は、とつくにこれをマッサージなどと認識して
いない。

●右 0 センチ

「穏やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく
お間違いなさそうですね」

シーラ、言うと、右耳にささやく。

それから、ますます乳首への愛撫を念入りにしていく。

★右 ささやき 〇センチ ※マークのセリフまでささやく
「【穏やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく。

乳首を念入りに愛撫しながら話している】

だつてお嬢様つたら……先程から、逃げるよう身を捩（よじ）られ。
その癖、大変ご期待なさっているようですから……♥」※

△主人公△

「あっ……!?」

★右 ささやき 〇センチ ※マークのセリフまでささやく

「【穏やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく。

乳首を念入りに愛撫しながら話している】

では、こちらも。丹念にマツサージして差し上げます。

ほら……このように、親指と人差し指の腹でしつかり摘まんで。

優しく、優しく。

こねこね、こねこねと解（ほぐ）してゆきましょう」※

S E 4 シーラがお風呂で身体を動かす音3

【最初から最後まで流す】

△主人公△

「はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ

はあ♥はあ♥はあ……つ

♥』

★右 ささやき 0セント ※マークのセリフまでささやく

「【穏やかに優しく。

優しい声のまま、主人公の乳首について言及していく。

乳首を軽く引っ張ったり、捏ねたりしながら話している】

……おや。

何（なん）だか今日は、硬くなられてもどこか柔らかく、よく伸びますね。

くに。くに。くに。くに♥

【乳首を伸ばす様を、見せつけて いるイメージで】

手触りが心地よくて、ずっと捏（こ）ねてしまえそうです……♥

【うつとりと】

……ふう……凄い。

くい。くい。くい、くい。

ぐに、ぐに、ぐに、ぐに♥」※

△主人公△

「あ♥　あ♥　あ……つ♥」

シーラ、主人公の乳首で遊びながら、さらに意地悪な指摘をしてくる。

S E 5 シーラがお風呂で身体を動かす音4
【最初から最後まで流す】

★右 ささやき 〇センチ ※マークのセリフまでささやく

「穏やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく】

ああ……お嬢様つたら、お身体がとてもお熱くなられています。

それだけ興奮なさっているのでしょうか。

【『だが、このままではいけない』という感じで。

少しおわざとらしく】

……ですが、このままでは、少しのぼせてしまうかもしません。

【ここでふと思いついたように。

だが、実際は、最初からこうするつもりだった】

そうだ。

お嬢様。お立ち下さいませ。

窓辺へ。このホテル自慢の。夜景の見える窓辺へ参りましょう」※

△主人公△

「え……っ？」

シーラ、言い終えると、主人公の反応を待つ事もなく、主人公の身体を支えて立ち上がり

る。

二人には体格差がある。

シーラが望めば、主人公の身体は、この通り簡単に持ち上げられてしまうのだ。

S E 6 シーラがお風呂場を歩く音

【最初から最後まで流す】

【S E 7と同時に流す】

S E 7 主人公がお風呂場を歩く音

【S E 6と同時に流す】

【S E 6が止まるタイミングで一緒に止める】

こうして主人公はあつという間に窓辺へ連れていかれ、一面ガラス張りの前に立つ。だが、主人公はこの突然の提案に対し、逃げないし抵抗もしない。

こうなる事を嫌がつていなし、むしろ、最初からこうなるのではないかと思つていた節さえあるからだ。

窓にゆらりと主人公が映り、そこに今度は主人公の呼気がかかる。

透明なガラスが、興奮と期待の象徴によつて曇つていく。

シーラ、再び背後から頭を近づけ、主人公の左耳に話しかける。

これによつて声の方向が『右』から『左』になる。

●左 0センチ

「穏やかに優しく。

主人公をよい位置に誘導している

さあ。こちらへ」

（主人公）

「シーラあ……♥ これえつ……♥」

主人公、窓とシーラに挟まれる格好になりながら、甘えた声で首を振る。

だがこれも、もはや『早くして』と懇願しているようになら聞こえないだろう。

シーラもそれをわかっている。

だから、今度は躊躇なく行為を進めていく。

●左 0センチ

「穏やかに優しく。

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言う】
ええ。ご想像の通りでございます。

お嬢様はこれから。

このガラスさんに、お乳首を気持ちよくして頂くのです」

シーラ、左耳にささやく。

そつと、恭しく主人公の両胸を持ち上げながら、あまりにも恥ずかしく……でも、絶対に気持ちいい事をさせようとしていく。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「穏やかに優しく。

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言う】
ほら……このように。下からお乳を持って差し上げますから。
熱くなつた乳首を、窓さんに擦り付けましょう？」※

△主人公△

「あ……！　あ♥　あ♥　あ♥」

主人公の硬くとがつた乳首がシーラの手に導かれ、ガラスに触れる。

それは少しひんやりとした心地よい感触で、主人公はため息を漏らしながら目を閉じる。

ここに擦れると、とても気持ちいい。

それしか考えられなくなつていく。

シーラ、主人公の両胸を持つて、乳首を、窓ガラスに丁寧に擦り付けていく。

S E 8 シーラが主人公の乳首を、ガラスに擦り付ける音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『シーラ』のセリフと同時に流す】

【▲1 まで流し続ける】

★左　ささやき　0センチ　※マークのセリフまでささやく

【穏やかに優しく。

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言う】

上から、下へ。上から、下へ。

上から下へと押しつけて。

硬くなつた先っぽを、なだめて差し上げましよう。
ふふ。ひんやりして気持ちいいですね？

【※6回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。
だんだん荒くなつていく】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあつ……

【穩やかに優しく。

先ほどより、少し興奮気味に】

窓をするオナニーは、とっても気持ちいいですね……

それに今日（こんにち）は景色も最高。

お嬢様は美しい夜景を見下ろしながら、

【※少しだけ媚びた口調で※ 言う。

『嘘喘ぎ』をする。

主人公の心情を推測して話している

『あんあん♥ あんあん♥ あんあん♥』とできるのですよ』※

△主人公△

「あ……！　あ♥　あ♥　あ♥」

何度も擦り付けられた乳首が、窓にいじめられる快感を覚えて、どんどん抵抗をなくしていく。

うつとりと痺れて、身体全部の神経を集中させるくらい、ガラスから与えられる快感に夢中になっていく。

このように主人公はシーラに自由にされる振りをして……自分から乳首をガラスに押し付け、堂々とオナニーを始めていた。

●左 0センチ

「※6回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。
だんだん荒くなっていく

はあ、はあ、はあ。

はあつ、はあつ、はあつ……♥

【穏やかに優しく。

先ほどより、少し興奮気味に
少し強くしましょう。

【※7回※ 擦るさまを擬音で表現する。

だんだんゆっくりになる】

ごし、ごし。ごし、ごし

ごーし……。ごーし……。

ごーし……。

「うつとりと興奮気味に。

目を閉じている主人公に、外の光景を言葉で描写していく事で、興奮を煽る。

また、これによつて目を開けさせようとしている】

お嬢様。ご覧になつて下さいませ」

〈主人公〉

「……？」

だがここで、シーラが新たなアプローチを始める。

すっかりとろけきつて目を閉じた主人公に、再び目を開けさせ。外の光景を、外にいる人々の事を意識させようとしているようだ。

●左 0 センチ

「うつとりと興奮気味に。

目を閉じている主人公に、外の光景を言葉で描写していく事で、興奮を煽る。
また、これによつて目を開けさせようとしている】

学園は、あの辺り。

私（わたくし）達の屋敷は、あちらの方にございます。

あそこの赤い屋根の建物の辺りが……ホテルに入る時に通つた道になります。

【ふと、今気づいたかのように。

少しづわざとらしく。

何の根拠もない事を、主人公を興奮させるためだけに言つているので
となると……。

もしあの辺りから見上げたら、私（わたくし）達が見えてしまうのでしょうか】

△主人公△

「なつ♥」

当然、主人公はこの新しいプレイにのつてしまふ。

主人公はこのシーラの指摘を受け、思わず目を開けると、シーラが今描写しただらう場所を探し、ますます全身を熱くする。

『……もし、そこに人がいたらどうしよう』そう思つたからだ。

だが、仮にそうだとして、主人公が視認できるはずはない。

あの位置に人間がいたとして、それはどうあろうと、ここからでは豆粒サイズ未満に感じられるほど遠い。

それは逆も然りだ。

たとえ見る側の視力がどれだけ優れていようと、相手からこちらが見えるとは、到底思えない距離だった。

シーラももちろん、それをわかつていて言つてているのだろう。

わかっているからこそ、ここで堂々と『窓辺セツクス』をしたがつてゐるのだ。

だがそれでも、主人公の心には不安と、それを上回る興奮がともる。

『もし見られていたら』というありえない空想に自ら飛び込み、あたかもそれを真実のようく思い込み始めているのだ。

●左 0 センチ

「優しく、ぼそつと。

自分達からは何の手も打てない事を強調し、より主人公の羞恥心を高めていく】

でも、例えそうだった所で、お嬢様はもう我慢できませんね」

「主人公」

「あ
♥」

声が震える程たかぶり、今にもおかしくなりそうな主人公に、シーラが次なる悪戯を始める。

意地悪にささやき、主人公に、自ら挿入を求めるよう促してくる。

シーラ、左耳にささやく。

★左　ささやき　0センチ　※マークのセリフまでささやく

「穩やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく

だつて。

そろそろ、中をほじつて欲しくなられているでしょ?

お嬢様は今、

【※全く変わらない口調のまま※　言う。

主人公の心情を予測して、それをあくまで淡々と述べる事で、主人公の羞恥心を煽つて
いる

『膣穴（ちつあな）をシーラの指に犯されて、奥の疼きをどうにかしてもらいたい』

『もう欲しくて欲しくて、切なくて、おかしくなりそう』

【穩やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく】

……と、お思いになられているのではありませんか？』※

▲1 ここでSE8がストップする。

SE9 シーラが主人公の膣内に、指を挿入する音

【最初から最後まで流す】

△主人公

「ああああつ♥」

だけど主人公は、まだ、少しくらいは猶予があるだろうと思つていた。
こんな事を言つてはいても、シーラがいきなり挿入してくる事はない。

そう考えていたのだ。

「主人公」

「あ。あ♥ シーラあつ……♥ シーラああつ♥」

だが、今日は違つたらしい。

シーラは遠慮なく背後から主人公の膣内に己の指を差し込むと、そのまま出し入れを始める。

ちゅぱちゅぱ、ちゅぱちゅぱと慣れた手つきで、主人公の膣内を行き來し、容赦なく快感を与えてくる。

●左 〇センチ

「優しく、しれつと。

まるで主人公の反応を意に介さずに言う。

『制止する主人公の声が聞こえなかつたので、もう、主人公の性器に指を挿入してしまつた』という意味で言つてゐる

ん？ ああ、申し訳ございません。

水の音で、お声が遠くて……。

勝手ながら、もうお入れしてしまいました……♥』

SE10 シーラが主人公の膣内に、指を出し入れする音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【▲2 でSE11と切り替わる】

●左 0センチ

「〔※息づかいのみで※ 表現する。」

うつとりとため息をつく。

主人公の膣内の熱さを堪能している

ん……♥

〔※4回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。

だんだん荒くなっていく】

ふう……♥

ふうつ。ふうつ。ふうつ……♥

〔※息づかいのみで※ 表現する。」

うつとりとため息をつく

はあ……♥

【うつとりと。

主人公の膣内の状態について述べる】

凄いです。

今日（きょう）はいつもより一本多く指をお入れしたのに、まるで抵抗がない……♥
お嬢様は、犯される準備がお上手ですね……♥」

シーラ、左耳にささやく。

△主人公△

「あっ♥　あっ♥　ああっ♥
あ♥　あ♥　ああ♥」

主人公、シーラの指の動きに支配され、指の位置に、動きに合わせて震え、びくびくと
小さく喘ぐ。

教室の時と違つて好きなように声が出せる上、この浴室は声がとても良く響くから、快
感も増幅してしまつ。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「穏やかに優しく。

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言う。

また、あくまでマッサージの体を続ける】

さあ、腰を落として、窓に深く手を付いて。

私（わたくし）の方へお尻を突き出し、一杯気持ちよくなれる格好になりましょう？
お嬢様の、一番奥までしつかり。

マッサージして、差し上げますから……♥」※

シーラ、ここでささやくのをやめて、通常の話し方に戻る。

●左 0センチ

「※6回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。

だんだん荒くなつていく】

ふう、ふう、ふう。

ふう、ふう、ふう……つ」

△主人公

「あつ♥ あつ♥ ああつ♥

主人公が犯されながら涙目で見下ろすのは、外の世界だ。

誰がいるかなどわからない。だが、いるかもしないと思いつながら、何回も真下を見回し、その度に起きてもいない事や、起こりそうもない事を空想してますます感じている。
というか、もし仮に本当に警戒するなら、見るべきは下だけじゃない。
だが、そんな事にすら考えが及ばぬほど、主人公は快樂に浸り、溺れている。

●左 0 センチ

「ふと気づいたように。

少しおざとらしく

ん……？

お外が気になるのですか？

【わざとらしく、少し間が空く。

窓の外の様子を見てから話し始めるイメージ】

確かに、もしあそこにどなたか居（お）られたとしたら。

遠すぎて、はつきりとは認識できなくても……。

『ああ、あそこに裸の女性がいて、後背立位（こうはいりつい）でやられているようだ』
という事位は、解つてしまふかもしませんね』

▲2 ここでSE10と11が切り替わる。

SE11 シーラが主人公の膣内に、指を出し入れする音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【▲3 で一段階速度が速くなる】

【▲4 でフェードアウトする】

シーラ、そう言いながら、指の動かし方や角度、早さを変え、ますます主人公の膣内を
刺激していく。

●左 0 センチ

【穏やかに優しく。】

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言葉責めをしていく】

このように指を押し込まれて。

ぬちゅぬちゅ、ぬちゅぬちゅと出し入れされ。

あられもなく喘いでいると……認識され。

お嬢様の可愛らしいお声を想像しながら、オナニーのおかずされてしまうかもしれません

せん」

〈主人公〉

「あ♥　あ♥　あ♥　……つうう……♥」

主人公、目から涙がこぼれるほど感じながら、ぎゅっと目をつぶる。
もう、この指摘だけで主人公はイきそうだ。

目を閉じていても、開けていても、いやらしい空想は止まらない。

もう、ほんと事実のように認識して、見られているかもしれないセックスに溺れてい
く。

それでもシーラは、攻めの手を緩めない。

主人公がいくのを、今か今かと楽しみにしているのだ。

シーラ、ダメ押しのように、左耳にささやく。

★左 ささやき 0セント ※マークのセリフまでささやく

「【穏やかに優しく。

あたかも、それが当然で、何も問題がない事かのように言葉責めする。
また、たとえこの行為が誰かに見られようと、見た側には何の責任もないだろうという
事を強調する。

【当然、誰かが見ている可能性はないと把握した上で言っている】

ですが、もしそのような事になつても。

お相手は何も悪くありませんね。

お嬢様は、大切なお身体を自ら見せつけ。

自ら恥ずかしい事をされているのですから。

例え見られてしまつても、文句など言えず。

むしろ『こんな姿をお見せして申し訳ございません』
と、謝らなくてはなりません……♥』※

〈主人公〉

「……つ ♥ あ ♥ あ ♥ あ…… ♥」

シーラ、ここでささやくのをやめて、通常の話し方に戻る。

●左 0センチ

「穩やかに優しく。

優しい口調のまま、さらに主人公を煽っていく。

また、こんな主人公には自分しかいないという事を主張する】

ああ、お嬢様は本当にいけない方です。

駄目な事だと理解しながら、人に見られそうなセツクスの虜にならされている。

このようなお嬢様には……私（わたくし）が一生。

ついていて差し上げなくてはなりませんね……♥』

△主人公

「あつあ♥ あつあ♥ あつあ♥ あああつ♥』

そうだ。その通りだ。

主人公にはもう、絶対にシーラしかいない。

このような主人公の狂った性癖を理解し、その上で何事もなかつたかのように付き合い、愛してくれる人間など、この世でシーラしかいない。

そんな事はとっくにわかっているから、シーラと生きていくためなら何でもするから、もつと気持ちよくしてこのままイかせてほしい。

そう思いながら主人公は窓に手を付き、ひたすらに喘ぐ。
絶頂がもう、近づいてきている。

▲3 ここでS E 1 1の速度が、一段階早くなる。

シーラ、再び左耳にささやく。

★左 ささやき 〇センチ ※マークのセリフまでささやく

「穩やかに優しく。

主人公がもうイきそうな事を指摘し、居もしない観覧者がいる事を想定してイかせよう
とする】

ほら……お嬢様。

もうイきたいでしよう？

どうぞ。

あの位置で見ているかもしれない方へ向かつて、

【※少しだけ媚びた口調で※

『』で囮まれた箇所を言う。

『嘘喘ぎ』をする。

主人公の心情を推測して話している】

『あんあん♥ あんあん♥ あんあん♥ あんあん♥』
と喘ぎながら、目一杯イキましよう。

『はあはあ。はあはあ。はあはあ。はあはあ。はあはあ』

と乱れながら。

『くうう……つ♥』と身体を反らして。

いく瞬間を、見せつけて差し上げましよう……

ね？』※

△主人公

「あつあ♥ あつあ♥ あああつ♥ あー……♥」

シーラ、ここでさきやくのをやめて、通常の話し方に戻る。

●左 0センチ

「〔※9回※ 少し早めに呼吸する。

満足げに、少し興奮した様子で。

だんだん荒くなつていく

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあつ。

はあ、はあ、はあつ……』

△主人公△

「シーラあ♥……シーラあ♥

いく。いくいくいくつ。いく♥

いつちやううう……♥』

だから主人公は、もう降参した。

『わたしは、いけない妄想をしては喜んで、その度に、いつもより気持ちよくなつていく変態だ』

『そんな歪んだ性的嗜好を満たすため、最愛の恋人に、毎回こんなセックスをさせて、

存分にいく変態だ』

それを身体の芯まで理解しながら、絶頂を宣言した。

●左 0 センチ

「少し余裕なさそうに。

少し早口になる。

主人公がいよいよイキそうなので】

ええ……どうぞ……どうぞつ……。

【※9回※ 早めに呼吸する。

満足げに、興奮した様子で。

だんだん荒くなっていく】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあつ。

はあ、はあ、はあつ……。

【※ここで主人公が絶頂する※

余裕なさそうに。

深く、荒く息を吐く】

はああああつ……



▲4

ここでS E 1 1がフェードアウトする。

△主人公△

「あああああ……♥」

S E 1 2

主人公がよろけて窓に手を付く音

【最初から最後まで流す】

かくして、主人公は今日五回目のガチイキをした。

シーラの言う通り、窓の向こうで誰かがこちらを見ている想像をしながら、あられもなくあんあんと喘いで、思い切り、達した。

△主人公△

「はーっ ♥ はーっ ♥ はーっ ♥
はーっ ♥ はーっ ♥ はーっ …… ♥」

●左 0 センチ

「〔※6回※ 早めに呼吸する。」

満足げに、興奮した様子で。
だんだんゆっくりになる】

はあ、はあ、はあ。
はー。はー。はあ……。

【※息づかいのみ※ で表現する。
満足げにため息をつく】

ふう……♥

【とても優しく。たっぷりと主人公を褒める】

可愛くいけましたね。

今回もお上手でしたよ……♥

素晴らしいイキ顔でした……♥】

だけど、そんな主人公にも、シーラは変わらず優しく、だが荒い呼吸でささやく。
シーラはよほど、今回主人公がいく様が気に入つたようだ。

達した後もしつこくこうして……また、主人公がじゅわっと濡れてしまいそうな事を言つて煽ってきた。

シーラ、再び左耳にささやく。

★右 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「穏やかに優しく。

優しい声のまま、えっちで意地悪な指摘をしていく】

もし、お嬢様がいく様（さま）と。

この、とろとろに解（ほぐ）れたおまんこをご覧になられた方が居（お）られたら。
その方は一生……今日の事を忘れられないでしょうね……♥ ※

【※1回※ 耳にキスする。

耳の入り口に、軽く触れるだけのキス】

ちゅ
♥』

ここでフェードアウトして終了。